

新まちづくり計画（H16～18）事業総括調書

施策体系コード	5-2-1		事業名	図書館施設の拡充
担当	教育委員会中央図書館管理課 小野 電話512-7330			
全体計画（当初）				
事業内容	札幌市図書館では、今後10年間の札幌の図書館のあるべき姿を示すため、平成14年1月に「札幌市図書館ビジョン」を策定公表した。この「ビジョン」は、新しい時代を支えるサービスを展開するための指針として、計画的・体系的な各施策を短期・中長期的な目標として設定し、推進することを目指している。この「ビジョン」に基づき、地区センター図書室の電算化や新たな地区センター図書室の開設などの事業を進める。		＜年度別の事業内容＞	
			平成16年度：はっさむ、厚別南地区センター図書室電算化事業 平成17年度：(仮称)八軒中央地区センター図書室開設事業	
事業内容 (量・場所・規模等)	平成16年度事業内容（決算）		平成17年度事業内容（決算）	
	平成16年10月、西区発寒10条4丁目のはっさむ地区センター図書室の電算化を行った。決算額7,006千円であった。これにより、地区センター図書室の電算化事業は全て終了し、市内36箇所の図書館・図書室が電算オンラインで結ばれ、市内均一の利用者サービスを展開できるネットワーク化が完成した。		平成18年4月、市民まちづくり局所管事業であり、西区八軒地区に建設されたはちけん地区センター内に、200㎡規模、蔵書数約1万5千冊の図書室を開設した。決算額は、44,200千円であった。	
事業内容 (量・場所・規模等)	平成18年度事業内容（決算）		評価（成果）	
	なし		平成16年度に地区センター図書室の電算化事業が終了し、平成17年度には、はちけん地区センター図書室を整備、開設した。これで、中央図書館をはじめとする市内ほぼ全域に公平で質の高い図書館サービスを提供できることとなった。	
		課題		
		既存施設の再評価とあわせて、新たなサービスポイントの開設にあたっては、区や地域との連携、施設の必要性、将来的な利用見通し、経費コストなどについて十分に検討し、計画的な取り組みを行う。		
19年度以降の方向性・事業の予定				
<p>今後、新たな図書室を開設するにあたっては、地域の特性や住民のニーズに配慮し、利用しやすい機能的な図書室となるよう計画を進めるとともに、図書館システム全体の中で果たす機能に応じた施設として整備を行う。</p> <p>また、図書館サービスの充実と向上を図るため、各図書館・図書室ごとの機能と役割を再評価するとともに、より効果的で弾力性のある図書館システムの構築を図っていく。</p>				

